

コンクール前の食事は唐揚げ。揚げ物の油分が喉のうらおいにいいらしい。



小学5年生で歌の楽しさを知り、高校2年生から声楽を本格的に学び始める

小さいころから音楽に合わせて踊るのが好きで、ダンスやバレエを習っていましたが、同じ教室には男子が少なく、そのまま続けるかどうか迷っていました。そんなとき、友人から歌の教室に誘われ、ミュージカルの歌の発表会を観に行ったのが、歌との出会いです。「歌ってすごい」と感動し、自分には無理かもしれないと思いながら体験レッスンを受けました。先生には「3年続けて素質がなければ、はつきり伝えます」と言われ、「まずは3年間、やってみよう」と、歌のレッスンを始めました。

レッスンは楽しく、中学3年生で初めてコンクールに挑戦。初舞台は緊張でお腹が痛くなり、リハーサルでは歌詞を間違えましたが、本番はなんとか歌い切りました。予選・本選を経験し、少しずつ舞台上に慣れたことで、入賞することができました。そのコンクールで「ミュージカル俳優をめざすなら声楽を学ぶといい」と審査員の方に助言をいただきました。調べてみると、憧れている俳優の方々には声楽を学んだ人が多いいました。「自分も歌を極めたい」と思い、本格的に声楽を学ぼうと決めました。

学び始めると楽譜に込められた作曲者の思いや意図を意識するようになり、ただ「歌う」だけのころとは違う自分を感じています。音楽の奥深さに触れ、もっと表現力を高めたいと思い、毎日発声練習や課題曲を練習します。イタリア語の歌曲にも挑戦し、発音や意味を調べながら丁寧に歌い込んでいます。併せてソルフェージュやピアノも学びます。声楽でも、



コンクールのワンシーン。

ミュージカル同様に成長したくて、高校2年生で全日本学生音楽コンクールに挑戦しました。

全日本学生音楽コンクール大阪大会
声楽部門初出場で1位に入賞

声楽を始めてまだ日が浅かったため、正直、自信はありませんでした。毎日の練習を信じて、「いつものように楽しんで歌おう」と精一杯の気持ちでステージに立ちました。なので大阪大会で1位になったときは「何かの間違いでは？」と驚きましたが、本当にうれしかったです。声楽だけではなく、これまでの積み重ねすべてが評価されたような気持ちでした。

全国大会に進むと、大阪大会以上にレベルの高い方々ばかりで、リハーサルの空気もまったく違いました。観客も多く、最初は緊張しましたが、練習を信じて楽しく歌えました。力を出し切ったので、後悔はありません。それよりも全国の出場者の歌声を聴き、自分にはまだまだ足りないことがたくさんあると気づけたことは貴重な経験だったと思います。

「もっと声量をつけたい」「イタリア語の発音や意味をもっと丁寧に表現したい」と、今は課題の克服にも取り組んでいます。今年も全日本学生音楽コンクールに挑戦し、全国大会で1位を取ることが目標です。日々練習を重ね、今以上に表現力を高めていきたいです。

多くの人の心に届くように、
歌に磨きをかけていきたい

歌という表現を通じて、「自分らしさ」を出せる。歌っているときが一番自分らしくいられる時間のような気がします。そして、歌で心が伝わる喜びは格別です。ある日、ダンス教室で「二本のバラ」を歌ったとき、先生の涙を見て「歌が心に届いた」と実感しました。まだ声楽の入り口に立ったばかりですが、もっと学んで自分らしい歌を届けていきたいです。

中学校への進学の際に、歌とダンスと勉強を両立できる学校を探していて、甲南中学校を知りました。校長先生のお話を聞き「ここで両方がんばりたい」と思いました。甲南では、先生や友人にも恵まれています。先生は「次はどんな挑戦をするの？」と声をかけてくださり、ガラコンサートには校長先生が来てくださいました。活動を応援してもらえる甲南に通えていることが、とてもありがたく、「もっとがんばろう」と思えます。家族もずっと支えてくれていて、家で歌えば間違えもすぐ気づかれるほど、いつも聴いてくれます。感謝の気持ち忘れず、もっと成長して夢をかなえたいです。

歌とダンスで心を動かしたい —— 夢はミュージカル俳優

1947年から続く、歴史ある音楽コンクールの大阪大会において、甲南高等学校初の声楽部門1位入賞を果たし、全国大会に出場した福留颯一さん。歌を始めたきっかけやコンクールのこと、将来の夢についてお話を聞きました。



甲南高等学校 初
全日本学生音楽コンクール大阪大会
声楽部門 高校の部 1位入賞

ふくどめ はやと
福留颯一さん

甲南高等学校 三年生